

きちよむ

吉四六さん村グリーンツーリズム研究会

ゆき よしこ

ごらく庵 幸義子さん、へもどっちき亭

かみの のりこ

神野 徳子さん

大分県臼杵市野津町

取材日：H29.11.6



ごらく庵の庭にて

『頼まれたことは断らない』姿勢で、国内外の旅行者を“農村民泊”として受入れる取組みが、臼杵市の活性化に繋がっている事例を紹介します

◆プロフィール

【取組みの経緯】

野津町の高齢化する農家の人が楽しみながら街の活性化に繋がりたいという思いから、平成14年8月に「吉四六さん村グリーンツーリズム研究会」が発足。当初は「ごらく庵」を含めた5軒で始めたが、現在では50軒を超える受入家庭に拡大している。平成15年から農村民泊の受入を開始し、平成16年から外国人旅行者の受入を開始した。

【農村民泊の受入状況】

- ・平成28年度までの受入状況は、累計で約1万人。国内と外国人旅行者の利用割合は1対1となっている。
 - ・国内旅行者の受入内訳は、小学生：中学生：一般及び高校生で、1：1：1の割合。
 - ・外国人旅行者の受入内訳は、韓国から6割、その他は30カ国を超える国々の旅行者を受入れている。
- 平成28年度は、熊本地震の影響で利用者のキャンセルが相次いだり、平成29年度は回復しつつある。

◆始めはこわごわ…今では楽しい!

平成14年の発足時、臼杵市の当時の担当者から「農家だけで「農泊」を行うことが難しいから、『農村民泊』として一緒に取組もう。」と説得され、農業の経験がない「ごらく庵」を含めた5軒で「吉四六さん村グリーンツーリズム研究会」を始めました。引き受けたのはいいものの、正直「誰も来ないで!」と願っていましたが、始めてみると、「できる!楽しい!」と自信がつかしました。

外国人旅行者の受入を始める前も、言葉が通じるだろうか、と不安でいっぱいでしたが、会員同士で工夫し、必要最低限の単語帳を手作りし、身ぶり手ぶりで説明すると何とか通じました。そのうち、80歳の会員が「もっとコミュニケーションを図りたい。」と、タブレットを購入して使いこなしているのを見て、他の会員へ波及効果が出ています。また、神楽開催日に滞在した外国人旅行者へ飛び入り参加してもらったときは、地元住民共々、大いに盛り上がりました。

『頼まれたら断らない。まずやってみる』という姿勢で旅行者の受入を行ってきたことが功を奏し、利用客は右肩上がりが増えてきています。

◆地域の子どもは地域で育てる

国内旅行者の受入れのうち、3割は臼杵市内の小学生です。これは「臼杵の子どもは臼杵で育てたい」という会員の強い思いがあって教育委員会をはじめ、学校、PTAに働きかけました。小学5年生が農泊体験をすることで、人とのふれあいや地域のことを知るきっかけとして始まりました。

また、修学旅行等130名を超える団体となると、受入が当研究会のみでは難しくなるため、近隣の由布市、佐伯市と協力をしています。

福島県の子どもたちを受入れたときに、地元・福島では2時間の外出制限がある子ども達が、世界遺産に登録された臼杵石仏の見学よりも、暗くなるまで外遊びに夢中になっていたことが印象的でした。自分たちにとっては当り前の環境であっても、守らなくては行けないと、改めて気付かされました。



画像：臼杵市役所提供

うすき100年弁当と手作りの竹箸

これからの女性農業者へのメッセージ

若い人たちが色々な活動をされていることは素晴らしいので、ぜひ継続して活動して欲しいものです。私達年長者も長年の経験を活かし一緒にやっていきたいと思っています。地域で活性化していくためには、農村だけの取り組みではなく、地元企業、漁業、林業を混在・連携させて様々な人が係わることで活動を広げ、継続していくことが重要です。

都会や海外の方は、何でもない林道にさえ感激してくれます。農村民泊は、普段の生活や風景が何よりのおもてなしとなることに気付かされました。



今後の目標

若い人を地域に呼びこみ、農村民泊を経営的に確立していく仕組みが必要です。そのためにも、もっと農村民泊に人を呼び込む必要があり、今後は企業研修等に活用してもらうなど、幅広い提案と宣伝を行って利用者の増加を目指します。

吉四六さん村グリーンツーリズム研究会について

所属：うすきツーリズム活性化協議会
会員：約50軒（旅館業簡易宿泊所許可を取得している家庭）

体験農園：20a

定例会：月1回開催、その他団体受入前後に必要に応じて開催

HP：<http://www.kichi46gt.com/>

活用した交付金：都市農村共生・対流及び地域活性化対策交付金 他

◆“うすき100年弁当”の取組み

受注生産のみになりますが、臼杵産の農林水産物のみでのお弁当づくりに取り組んでいます。お弁当の容器は、ゴミを出さないように竹の皮を使い、箸は地元の竹で手作りして添えており、食べたあとは洗って再利用できるように工夫しています。「今まで食べた弁当の中で1番美味しかった。」と食べた方の感想を頂き、大変嬉しかったです。

◆取組みの課題や苦労について

現在は、60歳代の会員が中心となっている取組みですが、70歳をこえる会員が年々増加し、農村民泊の受入れが困難になる家庭が出てくること予想されます。今後は、この活動を引き継いでくれる、特に若い会員を増やしていくことが大事です。うれしいことに、新たに40歳代の移住者3軒の加入があり、刺激を受けています。また、農村民泊の受入れを進めるためには、事務量が増えていくために事務局体制の確立も重要です。